



【オンライン開催】第9回適正技術フォーラム

脱炭素社会の構築と 適正な技術選択



昨年来、コロナ禍が世界を席卷していますが、やがてそれが収束していったとしても、気候変動は、社会が大きな転換を果たさない限り、逃れようもなく進行していきます。ようやく日本も、2050年までに脱炭素社会の実現を目指すことが打ち出されましたが、そこにいたる道筋は必ずしも明らかではありません。今回のフォーラムでは、適正技術または適正な技術選択の観点から、脱炭素社会をつくりあげていくための具体的方策を議論し、提言を発信していくことをめざします。

2021年2月27日(土)
14:00~17:00 @Zoom

お申込方法

適正技術フォーラム・APEX 会員の方

下記のWEBサイトからお申込みいただくか、事務局にメール・FAXでご連絡下さい。

<https://atfj.jp/activity/forum/forumform/>

一般の方

下記URLの「チケットを申し込む」よりお申込みください。

<https://atfjforum20210227.peatix.com>

会場 オンライン (Zoom)

※詳細はお申込みされた方にご案内いたします。

参加費 一般：1,000円(学生：500円)、会員：無料

定員 100名

主催 適正技術フォーラム

共催 特定非営利活動法人APEX

このイベントは独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて開催します。



事務局・問い合わせ

適正技術フォーラム事務局

〒110-0003 東京都台東区根岸 1-5-12 井上ビル

TEL:03-3875-9286 E-mail:info@atfj.jp

FAX:03-3875-9306 URL:<https://atfj.jp/>

プログラム

14:00 – 14:05 オープニング

15:25 – 15:35 休憩

14:05 – 14:50

基調講演「脱炭素社会と適正技術」

講師:西岡秀三

(公益財団法人地球環境戦略研究機関参与)

15:35 – 16:10

「脱炭素社会構築のための適正な技術選択に関する提言」

講師:田中直(特定非営利活動法人代表理事/適正技術フォーラム共同代表)

14:50 – 15:25

「洋上風力発電が開く世界ー脱炭素の最有力手段」

講師:牛山泉(足利大学理事長)

16:10 – 17:00 パネルディスカッション・質疑

モデレーター:古沢広祐(國學院大學研究開発推進機構客員教授)

講師プロフィール



公益財団法人地球環境戦略研究機関参与 西岡秀三氏(にしおかしゅうぞう)

東京大学大学院博士課程修了、工学博士。国立環境研究所理事、東京工業大学・慶應義塾大学教授、地球環境戦略研究機関気候政策プロジェクトリーダーを経て現職。専門は環境システム学、環境政策学、地球環境学。主に温暖化の科学・影響評価・対応政策研究に従事。著書に『地球環境がわかる』(技術評論社、2015年)、『低炭素社会のデザイン』(岩波新書、2011年)など。



足利大学理事長・特任教授 牛山泉氏(うしやまいずみ)

足利大学理事長・名誉教授。1971年上智大学大学院理工学研究科博士課程修了。足利工業大学機械工学科専任講師、助教授を経て1985年より教授。2008年足利工業大学長を経て、2016年より現職。工学博士。1970年代より風力発電の研究開発に携わり、これまでに文部科学大臣賞、国際協力推進協会学術奨励賞、World Renewable Energy Congress/パイオニア賞、日本機械学会畠山賞などを受賞。現在、経済産業省洋上風力発電官民協議会の有識者座長を務めている。風力及びエネルギー関連著書25冊。



適正技術フォーラム/認定NPO法人APEX代表理事 田中直(たなかなお)

特定非営利活動法人APEX代表理事。適正技術フォーラム共同代表。1976年、東京大学工学部卒業後、石油会社で石油精製プロセス管理、廃プラスチック再生、バイオテクノロジー、排水処理などの業務に従事する一方、1987年の設立当初からAPEX代表を務め、1999年より専従(代表)となる。理学博士。著書に『適正技術と代替社会ーインドネシアでの実践から』(岩波新書)、編著書に『転換期の技術者たち』、『第三世界の問題を考える』(劉草書房)、『エネルギー問題ー工業化社会の自然と労働』(社会評論社)など。



國學院大學研究開発推進機構客員教授 古沢広祐氏(ふるさわこうゆう)

國學院大學 研究開発推進機構 客員教授。(NPO)「環境・持続社会」研究センター代表理事。大阪大学理学部(生物学科)卒業、京都大学大学院農学研究科(農林経済)研究指導認定。農学博士。國學院大學経済学部(経済ネットワーク学科)教授を定年退職後、客員教授。著書に『食・農・環境とSDGs:持続可能な社会のトータルビジョン』(農山漁村文化協会)、『地球文明ビジョン』(NHKブックス)、『共生時代の食と農』(家の光協会)、『共生社会の論理』(学陽書房)他。